



20周年記念を祝して

九州歯科大学小児歯科学講座 教授 木 村 光 孝

日本小児歯科学会会員の皆様には、益々ご健勝にて日々小児口腔の健康維持、増進のためにご活躍されていることと存じます。

月日の経過は早いもので、日本小児歯科学会九州地方会も20周年を迎えることとなりました。私は、吉田穰初代会長の後を引継ぎ、昭和63年4月1日から平成4年3月31日までの2期にわたって九州地方会会長を勤めさせていただきました。その間は、日本歯科医師会による生涯研修制度の導入、また日本小児歯科学会による小児歯科認定医制度の発足といった専門分化の方向へと大きく流れ始めた時期でした。また、小児歯科認定医の導入に伴い、小児の口腔保健に対する関心が高まり、小児歯科医療の質の向上が求められるようになり、本会の果たす役割も大きくなってまいりました。日本小児歯科学会九州地方会大会においても年々多数の参加者を得、学会の開催地も福岡から最南端の地、沖縄まで九州各地に渡り、小児歯科医療の普及に努めてまいりました。講演および発表内容も多岐にわたり、大変興味深いものが多かつただけでなく、活発な質疑応答、討議が繰り広げられ、本会会員であります皆様の小児歯科に対する熱意に驚かされ、心強く感じたのを覚えております。

現在、わが国は急激に少子高齢化社会へと突き進んでおります。子どもの数は減少の一途を辿つており厳しい現状ではありますが、乳幼児期、学童期、青年期、成人、老人に至るライフサイクルの中で、小児歯科医療の意義や重要性は周知の事実です。さらに国民全体の歯科に対する知識が高まり、歯科医療の一層の向上が望まれている現在、専門分野としての小児歯科医療のさらなる充実は是非必要であります。また、会発足当時は虫歯の洪水の時代といわれ、社会問題にもなっておりました。その後、口腔保健の充実に伴い小児期の齲歯罹患率は減少してきましたが、歯列不正や不正咬合、歯周疾患、頸関節疾患などが携わる疾患も多種多様になってまいりました。さらに「8020運動」が推進されるなか、小児期において口腔内環境を整え、その管理を行う習慣を確立させることは非常に大切なことです。厚生労働省では「すこやか親子21」計画が策定され、小児の医療、保健、教育に対する支援が行われています。このような流れの中で、小児歯科医の果たす役割も変化してきたと感じております。

日本小児歯科学会九州地方会は、会員数が500名を超え、大きく発展してきました。そして、小児歯科医療に熱心に取り組む方々で溢れています。この会が最新情報、知識の発信源となり、小児歯科医療を引っ張っていけるものと確信しております。

日本小児歯科学会九州地方会のさらなる発展と飛躍を祈念しております。